

連結財務書類(4表)から

杉戸町の財政状況を見る

問合せ 政策財政課 財政担当 内線 272

町では、平成22年度決算以降、国の「新地方公会計制度」に基づく財務書類4表を作成しています。「新地方公会計制度」による財務書類は、民間企業のように発主主義の考え方が取り入れられています。今までの決算では把握できなかった資産(ストック)や費用(コスト)の情報が加わるほか、水道事業会計や国民健康保険事業会計などの公営事業会計、さらには町と一体となって行政サービスを提供している関係団体を含めた「連結ベース」で作成することにより、行政サービスに関連する杉戸町全体の財政状況を見ることができま

■ 連結財務書類からわかる町の財政状況

1. 財政面における町の特徴

杉戸町は資産に対する負債の比率が比較的低く、将来世代と現世代が良いバランスで財源を負担しているといえます。当年度の大きな投資は、圏央道や東埼玉総合病院へのアクセス向上のため町道I級5号線の改良事業を行い、その影響で生活インフラ・国土保全に係る資産が増加しています。行政サービスの効率性を示す住民一人当たり行政コストや住民一人当たり資産対コストの指標は近隣団体に比べやや低い水準で、行政運営が効率的に行われているものと考えられます。



2. 財政面における町の課題

一般財源等の収益は大きな増減はありませんが、減少傾向となっており、内訳を見ると地方税、地方交付税はともに減少しています。限られた収入の中で、コストの削減に努め、必要な行政サービスを工夫して実施していますが、今後は老朽化した施設の維持補修・更新の費用や少子高齢化に伴う社会保障関係費が大幅に伸びていくことが懸念されます。また、普通会計から国民健康保険特別会計や公共下水道事業特別会計への補てん的な繰出負担が大きく、町の財政を圧迫しています。引き続き国民健康保険事業や公共下水道事業の経営改善を進める必要があります。



1 連結貸借対照表 (平成26年3月31日現在)

連結貸借対照表は、町が保有する資産と、その財源となった負債・純資産を一覧表にしたものです。杉戸町の資産は767億円、負債は209億円、純資産は558億円です。資産に対する負債と純資産の割合は、約3対7です。主な資産は、道路、橋りょう、小・中学校、消防施設、上下水道施設などの「有形固定資産」であり、その簿価は691億円です。そのほかに「基金」や「資金」、「未収金」などがあります。負債のうち借金である「地方債」は153億円、このうち49億円が公共下水道事業特別会計で起債したものです。

連結貸借対照表は、「資産」と「負債・純資産」が必ず等しくなるので、「バランスシート」ともいいます。

杉戸町 マスコットキャラクター すぎびよん



資産	767億 1100万円
公共資産	695億 900万円
有形固定資産等	691億 円
売却可能資産 *1	4億 900万円
投資等	30億 8900万円
投資および出資金	1100万円
基金等	25億 4000万円
長期延滞債権 *2	6億 7200万円
その他	300万円
回収不能見込額 *3	△ 1億 3800万円
流動資産	41億 1300万円
資金	38億 2600万円
未収金	3億 3200万円
その他	1400万円
回収不能見込額 *3	△ 5800万円

負債・純資産	767億 1100万円
負債	208億 7700万円
地方債(長期+短期)	153億 6200万円
未払金(長期+短期)	17億 3100万円
退職手当等引当金 *4	33億 7600万円
その他	4億 800万円
純資産	558億 3400万円

*1 年度末の時点で、行政サービスへの活用方針が決まっていない資産
*2 収入未済額のうち、前年度以前に調定された金額
*3 債権のうち、回収不能と見込まれる金額
*4 将来の退職手当債務のうち、当年度末までの労務提供に対応する金額

■ この表を見るポイント!

杉戸町は全体で767億円の資産を保有し、そのうち558億円はこれまでの世代が支払ってきた資産、209億円はこれから将来にわたって支払うべき債務を表しています。

2 連結行政コスト計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

連結行政コスト計算書は、1年間に行う経常的な行政サービスに、どのくらいのコストがかかったかを表しています。「経常行政コスト」から「経常収益(税金は収益に含みません)」を差し引いて、税金や補助金収入で賄うべき「純経常行政コスト」を明らかにします。杉戸町の「経常行政コスト」は237億円、「経常収益」は101億円であり、「純経常行政コスト」は136億円です。

経常行政コスト(A)	237億 1600万円
人にかかるコスト	31億 7800万円
物にかかるコスト	58億 4600万円
移転支出的コスト	137億 3700万円
その他のコスト	9億 5500万円
経常収益(B)	101億 6300万円

純経常行政コスト(A-B) 135億 5300万円

4 連結資金収支計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

連結資金収支計算書は、1年間の町の収入(歳入)と支出(歳出)を性質の異なる3つの区分に分けて表示したものです。平成25年度においては、「経常的収支額」28億円、「公共資産整備収支額」△8億円、「投資・財務的収支額」△19億円で、その結果、資金が1億円増加しました。

経常的収支額	27億 7800万円
支出合計	215億 4600万円
収入合計	243億 2400万円
公共資産整備収支額	△ 7億 8200万円
支出合計	12億 8700万円
収入合計	5億 600万円
投資・財務的収支額	△ 18億 6600万円
支出合計	19億 3800万円
収入合計	7200万円

当年度資金増減額 *1 1億 3100万円

*1 経費負担割合変更に伴う差額を含む

期首資金残高 36億 9400万円

期末資金残高 38億 2600万円

3 連結純資産変動計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

連結純資産変動計算書は、連結行政コスト計算書で計算した「純経常行政コスト」が、どのように税金や補助金収入などの財源で賄われたかを示すものです。平成25年度においては、期首純資産残高は562億円、期末純資産残高は558億円であり、純資産が減少しました。136億円の「純経常行政コスト」に対して、税金や補助金収入などが132億円で、コストが収益を上回ったためです。これは、現世代のコストを現世代の税金等で賄うことができず、将来世代のために蓄積してきた財産が減少したことを示しています。

期首純資産残高 561億 6300万円

当期変動額	△ 3億 2900万円
純経常行政コスト	△ 135億 5300万円
一般財源	
地方税	53億 1400万円
地方交付税	17億 2500万円
その他行政コスト充当財源	11億 2200万円
補助金等受入	50億 4000万円
公共資産除売却損益	0万円
資産評価替えによる変動額	-万円
その他	2200万円

期末純資産残高 558億 3400万円

杉戸町の連結範囲

- 1 地方公共団体
 - (1) 普通会計
 - (2) 公営事業会計
 - (3) 公営企業会計/水道事業、公共下水道事業、介護サービス事業
 - (4) 行政事務特別会計/国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療
- 2 第三セクターなど
 - (1) 有限会社 アグリパーク ゆめすぎと
 - (2) 社会福祉法人 杉戸町社会福祉協議会
 - (3) 公益社団法人 杉戸町シルバー人材センター
- 3 一部事務組合など
 - (1) 埼玉県市町村総合事務組合
 - (2) 彩の国さいたま人づくり広域連合
 - (3) 利根川栗橋流域水防事務組合
 - (4) 埼玉県後期高齢者医療広域連合
 - (5) 埼玉葛商組合
 - (6) 埼玉東部消防組合